

第5回泉佐野丘陵緑地運営会議

日時：2012年2月3日（金） 10：00～12：00

場所：大阪府新別館北館 4F

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 増田昇（委員長）

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 下村泰彦

大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員 弘本由香里

うみべの森を育てる会 代表 西台幸子

泉佐野市都市整備部 部長 松下義彦

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副会長 杉本和彦

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 会計 佐々木紫朗

◆傍聴者

一般 1名

◆議事

○報告案件

<報告1：平成23年度運営会議開催計画・実績について>

<報告2：第4期（仮称）泉佐野丘陵緑地パークレンジャー養成講座について>

<報告3：泉佐野丘陵緑地フォーラムについて>

増田委員長

- ・第6回運営会議については、ゾーニング案を議論していただくことになっている。その際に図面を広げながら議論できるような形を取ってほしい。
- ・パークレンジャー養成講座については、来年度は土曜開催となる。またパーククラブが講師を担当する回も1回増えた。将来的にはほとんどの講座をパーククラブで担っていただければ考えている。
- ・泉佐野丘陵緑地フォーラムについては、2名のアドバイザーの方々の意見をいただきたいということと新しい公共がどのような役割を担っていくのかということについて議論できればと思う。

<報告4：パーククラブの活動報告（12～1月）について>

増田委員長

- ・映像があって活動がわかりやすくなった。活動場所がわかるように、映像に図面をつけてもらえるとうわかりやすい。
- ・何期生までパーククラブ養成講座をするのか。パーククラブの会員が100人を超えたら講座も違う形

を考えていった方がよい。例えば環境学習プログラムを学ぶ講座にするとかの変化が必要になってくるだろう。

杉本委員

- ・パーククラブの人数が増えるのがよいが、新規会員が活動になれるのに時間がかかる。みんなの気持ちをまとめていくことを考えると、どうしても会議が増えてしまう。当初の予定では、パーククラブは200名であるが、そうなってくると会議室の問題も出てくる。現状の100名くらいまでが一番よい人数ではないかと思う。

増田委員長

- ・この公園は極力急成長をしないようにするという考え方がある公園なので、以前のようにただ人数を増やしていくということはない方がよい。

事務局

- ・次年度の運営会議でそのことを議論したい。

増田委員長

- ・パーククラブの形態は、パーククラブの中でいくつかのグループに分かれていく形もあるだろうし、パーククラブ自体が複数の団体になる場合も考えられるだろう。

下村委員

- ・パーククラブのステップアップを目指した講座をテーマ別で開催する可能性はあると感じた。

杉本委員

- ・野鳥や植物の観察会をする際に、パーククラブだけでは知識不足で、同定することが難しい現状がある。毎回の必要はないが、数回に一度は専門家にご指導いただきたい。

前中先生

- ・要所要所で専門家からアドバイスをもらえるよう体制が取れるとよい。しかし、必ずしもすべての動植物を同定できなくてもよいケースもある。単にきれいとかを感じる活動もある。

下村委員

- ・将来的に、観察会をするときにもパーククラブが講師をするのか、パーククラブは裏方に徹して専門家を講師として呼ぶのかにもかかってくる話と感じた。

杉本委員

- ・パーククラブの現状として、単に参加するだけの人と企画等をする人と意識の差が大きくなってきた。なるべくパーククラブ全員に企画を行う意識を持ってもらおうとしたが、去年一年間はそれが実現で

きなかった。企画の意識を持ってもらうためにも、専門家が行う講座を体験して、手法を学び取ってほしいと思っている。

弘本委員

- ・関わり方の温度差はある程度の幅が出てくる。これは仕方がないことだと思う。長く活動を続ける秘訣としては、大きな方向性や目的は共有したうえで、自発性を尊重するために自分の好きな活動ができるという状況をつくっておく方がよい。将来的には、たとえば竹や木の伐採と連動した炭づくりと農業や生活での活用など支部的なグループが出てきてもよいと思う。徐々に移行していくほうがよいと思う。

西台委員

- ・私たちのところにも専門家はいなかったが、大阪府立大学の学生にきてもらったりしながら、ゆっくりと焦らずに知識を高めるようにしている。私たちの団体も、月に1回は植物調査を行っているが、それは興味がある人が来て、その他の人には結果報告をしている。何かを始めようとする、先導役がでてくる。その人を中心に小さなグループをつくって活動を始めていければよいのではないかな。

増田委員長

- ・養成講座は人数を増やしてくのか。それとも会員のスキルアップ講座をやっていくのかを見極める時期に来ているのではないかな。
- ・貝塚高校の園芸科はササユリの保全培養の取り組みをしている。専門的な学校や大学との連携はこれから密に取ってくる方向も考えていくほうがよい。
- ・パーククラブの基本的な進め方としては、価値観を共有しながらも自発的な取り組みを尊重しながら進めていくことが必要である。

○協議案件

<協議1：パークセンターについて>

1. 建物の設備等について

前中委員

- ・草屋根をどのように管理していくのかという問題がある。多種多様な草木が茂ってくると思うがどうするのか。
- ・軽量土壌の水を含んだ重量はどれくらいになるのか。夏に草は枯れるが、それはよいのか。

事務局

- ・木本は伐採する。その他は放置しつつ50cmくらいの草屋根をつくっていきたいと考えている。
- ・軽量土壌の水を含んだ重量は120kg/m²になる。スクリンプラーを整備するので夏でも草が枯れることはないと考えている。

増田委員長

- ・散水栓は図面から抜けているのではないか。

事務局

- ・前回提案させて頂いた通りなので省略してしまっている。腰屋根の下にパイプが通って、そこからノズルで下に落ちない程度のひさしをもうけている。また、草屋根の草刈などの管理があるので、安全パイプもまわるような形で考えている。

増田委員長

- ・ゲリラ豪雨の対応ができるのか。その場合の保証が考えておく必要がある。

前中委員

- ・草屋根に特定外来生物であるナルトサワギクがあると省かないといけない。

弘本委員

- ・バックヤードがゴミ置き場になるというイメージなのか。

事務局

- ・日常的なゴミを回収する時間は決まっているので、そのときにバックヤードに集める形をとりたい。キャスターがついたゴミ箱がいくつかあって、分別などに対応できる形を取ることも可能性としてはある。

増田委員長

- ・公園にゴミ箱を設置すべきかどうかということは議論したい。ゴミ箱を設置するとそれ以上のゴミが発生するので設置しないことが基本だと思う。施設内部で発生したゴミは備品で処理をして、収集日にだすということだと思う。分別用のゴミ箱も同じようにゴミを呼び込むので設置しないほうがよいだろう。

事務局

- ・せんなん里海公園もゴミ箱を設置しないこととしている。自動販売機があるところだけはベンダーさんに回収してもらうという形をとっている。泉佐野丘陵緑地も同じと考えている。

杉本委員

- ・パーククラブ用の書庫はどこにあるのか。

事務局

- ・ボランティアルームにあるということを考えている。

杉本委員

- ・私のイメージでは、来園者にロビーなどで図鑑を見てもらうなどの対応があるかと思うが、そのあた

りはどのように考えているのか。

事務局

- ・ロビーの情報コーナーでは、図鑑などを貸し出す予定は考えていない。公園のパンフレットやチラシなど設置する程度で考えている。
- ・情報コーナーはL型で広いスペースがあるので、簡易な図鑑などは置けると考える。

増田委員長

- ・畳の椅子があるところでは、書架を置いて閲覧用の図鑑などは必要かもしれない。盗難の心配もあまりないだろう。
- ・一度、事務局で情報コーナーの収納スペースも見ながらどちらに図鑑をおくかを検討いただきたい。
- ・パーククラブが使う本については、ボランティアルームに収納するか、情報コーナーに設置するかのどちらかだろう。

2. 外構計画について

杉本委員

- ・外部からの樹種の持込は禁止だと聞いている。その面でシラカシやマテバシイはふさわしくないのではないか。ただ、マテバシイは工作に使えるどんぐりが取れるので、あってもよいと感じている。

前中委員

- ・樹種は多様であるので、周囲に問題を引き起こす樹種であれば他のものに置き換えたほうがよいだろう。あるいは特別に主張できる理由があれば、郷土種でなくてもよいと思う。
- ・シラカシが植わっていることによって空間を分断している気がする。この配置でよいのか。
- ・パーククラブで議論して決めたということであれば問題ないと思うが、近年ハマヒサカキは暗黙の了解で植えないことにしていた。別の種類がいいのではないか。
- ・ヤマザクラは葉の色が微妙に異なる方がきれいに見える。接ぎ木で行うと同じ遺伝子の樹木になるので景観上あまりよくない。ヤマザクラを植えるときは、実生から育てたものを植えてほしい。
- ・カナメモチも自生のものがある。この公園も自生のものを使ってほしい。ベニカナメモチはだめ。

増田委員長

- ・シンボルツリーはコラボレーション区域の樹木を移植することを考えてもよい。工事は1年先なので、根回しをしておいて植えることを検討していただきたい。
- ・キャタピラの運搬車があれば、運んでくることができるだろう。
- ・ゾーンCの広場の位置づけは、「休憩・団欒」というより「イベント・講習」の場とするのが良い。
- ・開園するとパーククラブの作業の情報がわかるようにしておいたほうがよい。そうでなければ、勝手に木を切っている等の誤解を生じてしまう。
- ・府内産材を使うようにしてほしい。大阪府は行動計画を出されたと思う。農業森林組合は、府内産材の認定制度等がある。そのような制度を利用するのもひとつかもしれない。河内長野にも府内産間伐材の加工場がある。

- ・第6回の運営会議では、植栽に関する修正提案だけいただければと考えている。

<協議2：パーククラブの組織運営及び平成24年度活動方針・活動計画について>

増田委員長

- ・運営会議の資料は、案という形で提案してほしい。
- ・大阪府の計画も併せて運営会議で議論したい。来年度の工事や広報等に関する計画を、次回の運営会議に出してもらいたい。

事務局

- ・府の計画も活動計画図に記載して、次回の運営会議でご意見をいただく。

弘本委員

- ・パーククラブと行政がどのように関わりながら公園づくりを進めているのかという点はとても重要である。
- ・イベントの考え方は、公園にお客さんをお呼びして楽しんでもらうイベントが主な内容になっているが、調査活動に参加してもらおう等の学習プログラム等のイベントをしてもよいと感じた。例えば、ササユリ調査に小学生をお呼びして、4回程度は必ず参加してもらおうとか、一緒に草刈をするとかの内容でもよいと思う。
- ・そうすることで、公園づくりのパートナーを育成できるのではないかと思う。

増田委員長

- ・対外イベントが年に8回となっているが、この回数は圧倒的に少ないと感じている。
- ・組織構成も、各グループから代表者が出て、ゾーニング等を決める流れになっているが、同じように各グループからイベントや広報を担当する人が出てもよいと感じている。
- ・パーククラブは大阪府に代わって整備したり、自分だけが楽しむ団体ではない。もっと人を楽しませるような団体になる方向性もあると思う。

佐々木委員

- ・対外的に小学生をお呼びして調査活動を行えるレベルに達していないと感じている。パーククラブ自身ももっと勉強できる機会をつくっていきたいと感じている。

増田委員長

- ・イベントでは、はじめからプロとして振舞う必要はない。手探りをしながらも徐々に知識をつけていけばよいと思う。

事務局

- ・地元の上之郷小学校の先生がとても興味を持っている。小学生を公園にお呼びして、公園ガイドを行うことから始めていくということも考えられるかもしれない。

増田委員長

- ・その際、安全管理は小学校が行うことにしておいたほうがよい。すべての安全管理をするとすると、パーククラブの人数が幾らいても足りないと思う。

西台委員

- ・私たちはカブトムシや川の生き物調査をしている。わからない生物や植物があったときは、次までに調べておくというスタイルをとっている。

増田委員長

- ・他の府営公園で行っているほとんどの団体は、自分たちの楽しみを目的に活動している。この場合、その団体はNPOとは呼べない。しかし、この公園では人のために何かをしようとする団体としてパーククラブを育成している。サービスを提供することが楽しみに感じてもらえる団体になってほしい。

杉本委員

- ・趣旨はよくわかっている。パーククラブ内に温度差があって、まだそのレベルまでの意識を持つまでに至っていない人もいるのが現状。日頃の活動の中で、お客さんを招いてやるということがホストの意識を醸成すると思うので、進めていけるように考えていきたい。

弘本委員

- ・道づくりについても、どんな考え方でどんな活動をしているかという話を聞くだけでも面白いと思う。

増田委員長

- ・一緒に活動しても一般参加者は楽しいと思う。

佐々木委員

- ・一緒に活動するとなるとパーククラブと一般参加者の区別が難しくなる。そのあたりの整合性をどのように取るかが迷う点である。

増田委員長

- ・パーククラブと一般参加者の区別は、企画運営をしているということと、当日参加をしているという点で違いを見出すとよいのではないか。

下村委員

- ・イベントは当初お客さんを招いてもてなすという目的から始まっている。そのため、準備に多くの時間を費やしてきた。今回はそうではないという話をいただいたと思う。

増田委員長

- ・通常の活動日に5～10人程度公募していっしょに活動を行う。そのような形をつくってもよいのではないか。
- ・広報も同じで、各グループから出していただくほうがよい。公園をつくるという整備の作業も大事であるが、それと同様にイベントや広報も重要である。

前中委員

- ・園路は図面に落とすと確定したように感じる。実際は現地の状況に応じて変化を持たせた形にするほうがよい。例えば、池の周りに園路が通っているが、池の周りには道が通っていないところがあってもよいのではないか。

増田委員長

- ・道づくりであっても、広場づくりであってもまずは調査すべきだ。木を切る際にも、どの木を切るかをみんなで確認しながら進めていくべきである。本来、活動ルールについては、そのような内容が出てくるべきである。「計画どおり」ではなく、「現地の状況を確認しながら」などのルールのほうがよいと感じた。

前中委員

- ・何人かで話し合っ、意見が分かれば実行しないというルールがあってもよい。

増田委員長

- ・準備と片付けは原則全員参加である。誰かに任せると事故が起こるし、負担が誰かにかかってしまう。

杉本委員

- ・私達の趣旨も同じだ。順番に回るようにするために、今回のルールを考えた。そのあたりはもう一度パーククラブ内部でも検討したい。

増田委員長

- ・そうであれば、その趣旨がわかるような文面にしたほうがよいのではないか。
- ・運営会議で議論していることをパーククラブ内でも議論していただければよいと感じている。

第6回（次回）運営会議

3月15日（水）10:00～12:00